

草の根・人間の安全保障無償資金協力「タジキスタン国立がんセンター医療機材整備計画」引渡し式

8月3日、日・タジキスタン外交関係開設30周年を記念して「草の根・人間の安全保障無償資金協力」によりタジキスタン国立がんセンターに整備された医療機器の引渡し式が行われました。引渡し式には、タジキスタンを訪問中の古屋圭司衆議院議員（日・タジキスタン友好議員連盟会長）、相木大使のほか、ガフル・ムフシンゾダ・タジキスタン保健社会保護省第一次官、ザファール・フセインゾダ・タジキスタン国立がんセンター所長らが出席しました。

本計画で我が国政府が91,433米ドルを国立がんセンターに供与し、日本メーカーの高品質な超音波診断システムが導入されたことにより、より多くの人々に安全で質の高い医療サービスを提供できるようになりました。

完成式典で古屋議員は、医療分野が日本の対タジキスタン支援において重要な分野の一つであり、日本の支援の強みが医療機材供与といったハード面での支援と人材育成といったソフト面のパッケージであると述べるとともに、今回供与された医療機材がより多くのタジキスタンの国民の命を救うことに貢献するよう期待する旨表明しました。これに対して、ムフシンゾダ保健社会保護省第一次官、フセインゾダ所長からは、日本の協力に対して謝意が表明されました。

